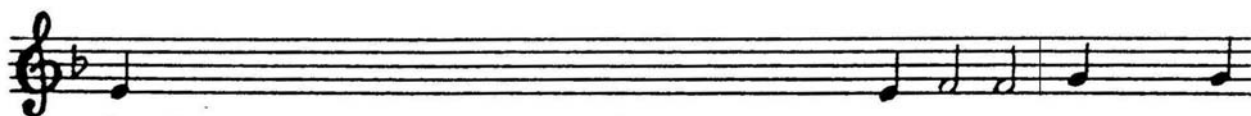
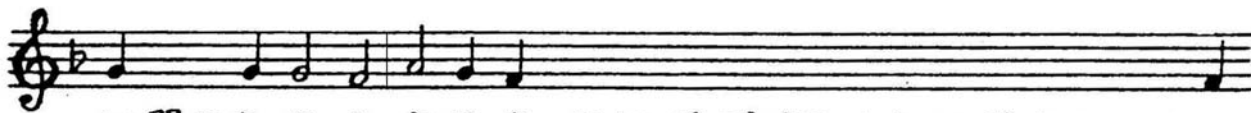


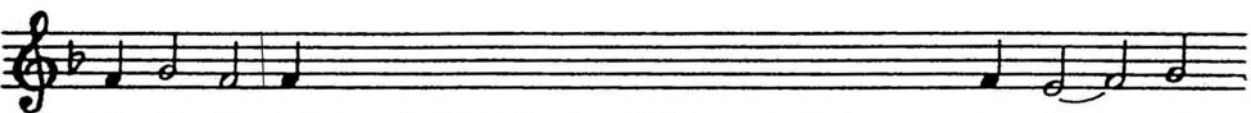
中の週間の木曜日の晩課



主や汝によぶすみやかに我れにいたりたまえ 主やわれ



に聞きたまえ 主やなんじに呼ぶすみやかに我れにいたり



たまえ 汝に呼ぶときわが祈りの声をいれたまえ



主やわれに聞きたまえ ねがわくは我が祈りは香炉の香りの



ごとく汝がかんばせの前のぼりわが手をあぐるはくれ



の祭のごとくいれられん 主やわれに聞きたまえ

「主よ、爾に籲ぶ」に六句を立てて、左の讚頌 三章を歌ふ、第四調。

主よ、我等信者は爾の常に福なる十字架、爾が此を以て我等を救ひしものに接吻するを得て、爾の慈憐を歌ひ、熱切に爾に祈る、救世主よ、衆に爾の救の喜びを與へ、我等に痛悔を以て爾の尊き苦と爾の復活とを見るを得しめ給へ。』

主よ、爾は十字架に擧げられ、死を忍びて死を死し、爾の生を施す言を以て死者を復活せしめ給へり。故に我爾に祈る、人を愛する主よ、罪に由りて殺されたる吾が靈を活かして、我に齋の爾の聖なる日に於て傷感と諸惡の赦とを與へ給へ。

又讚頌、フェオドル師の作。第四調。

神我が救世主よ、我等喜を以て爾の聖なる十字架を見て、之に接吻するを得て、爾に祈る、願はくは我等は齋に堅められて、爾の至浄なる苦にも至り、之に伏拜して、釘殺、戈、海絨、及び葦を歌はん、蓋爾は此等を以て我等を不死の者と爲して、復古の欣ばしき生命に升せ給へり、人を愛する主なればなり。故に我等今感謝して爾を讚榮す。